

## 1、福は内・鬼は外

今年は2月4日が立春。鳥坂の梶原山麓では「フキノトウ」探しやタケノコの生育状況探索が始まる。

その前日の節分といえば「豆まき」。伝統行事だから奈良の寺社でも行事が組まれていて、新聞にその案内が載る。

大体は何か法要があり豆まきとなるが、客寄せにタレントさんや話題の人を招いて豆を撒いて貰うとか、赤鬼・青鬼に扮した人に豆を投げ合って楽しむなどが行われるようである。

そんな中で少し変わっているのが

金峰山寺蔵王堂の豆まき。(右図参照)

世界遺産(国宝)蔵王堂で厄払い

### 「福は～内、鬼も～内！」

役行者伝承の秘法で悪い鬼も改心する

## 2/3 蔵王堂の節分会

鬼火の祭典

午前11時～ 星供と護摩供、厄除けの聖杖加持(要申込)

鬼の調伏式(聖杖加持受者も参加します)

修験道秘法転禍為福の探灯大護摩供

午後1時頃 福豆まき(豪華景品あり、参加無料)

※全国から逃げ出した悪鬼は吉野山に集結、役行者の秘法で加持された

福豆を山伏により打ち付けられると、改心して良い鬼になります。

当日の一般参拝は無料。厄除け祈禱(郵送可)や聖杖加持など受付中。

## 金峰山寺蔵王堂

奈良県吉野郡吉野町吉野山 TEL.0746-32-8371



蔵王堂といえば奈良南部の吉野山にあり、山伏修験道の総本山で世界遺産の指定を受けているところ。ここの節分行事は「鬼火の祭典」といわれ、伝統的に『福はうち、鬼もうち』と唱え、全国から追われて来た鬼を集め、福豆を打ち付けて福の神にして全国へ返すのだという。イイジャンイデスカ。

その昔『鬼の行方』という学習があり「豆で追われた鬼はどこへ行けばよいか」と考えあったことがある。「鬼など殺せばよい」と考えていた者が「鬼と共に生きる」道を探るのがこの学習のねらいだが、理想は言えても現実には難しい。

「鬼って何？誰のこと？」「あなたの心の鬼は？」「鬼の生かし方は？」

とりわけ、儲け主義や出世執着は、福の神自身が鬼になる。

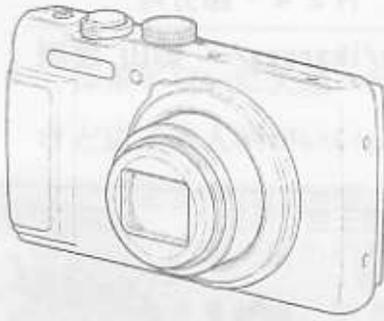
「この家にゃ あまたの鬼が取り巻いて 七福神は外へ出られず」一休さんの狂歌



小林弘典



## 2、お主 やるなア



東京の音楽研修でのこと。主催者から「中国人お二人がカメラを買いいたいとのことなので、案内して欲しい」と依頼され、ホテルから新宿の著名カメラ店に案内した。

さすがに地方では考えられぬ品揃え。彼ら二人はすぐに中国語が出来る店員を捜し当てて品定めを始めた。

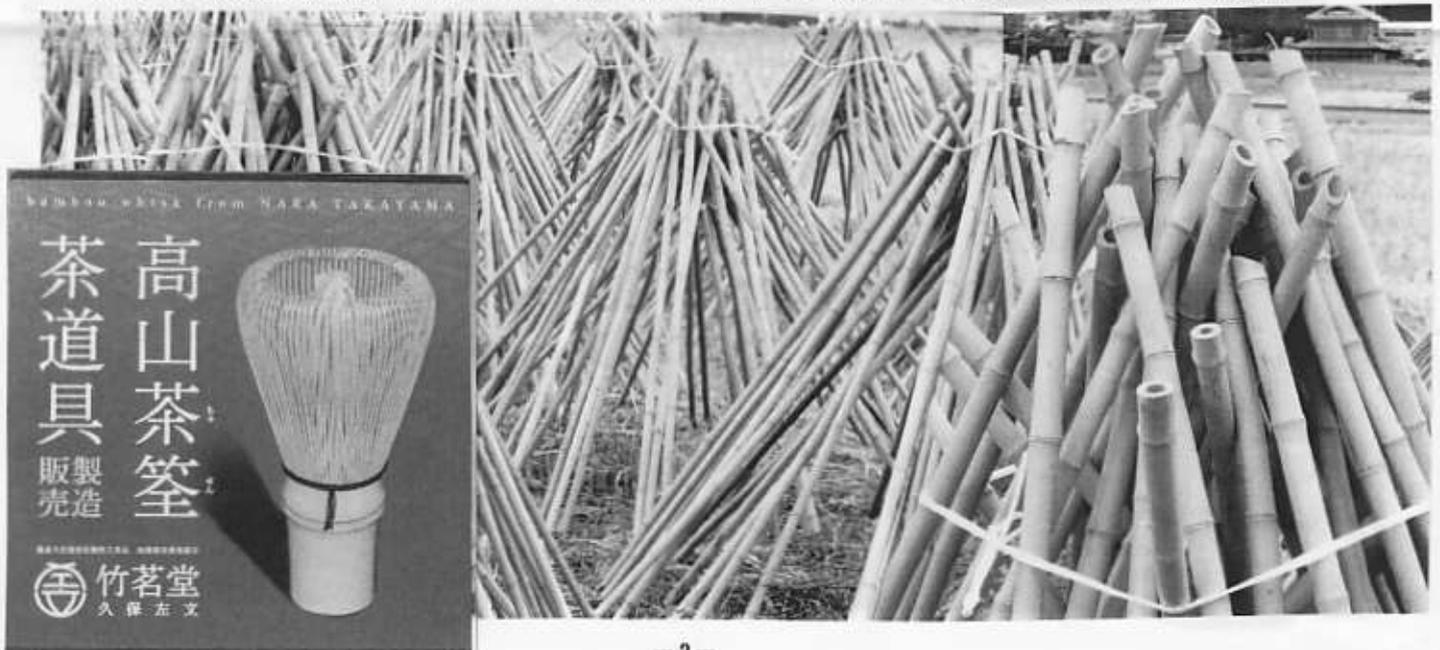
かなり執拗なやりとりなので私は疲れて休憩室に居たが、小一時間も過ぎて商談が出来たというから、行って見てびっくり。小さな店なら開けるほどの商品の山。少なくとも数百万円か？ そんな現金を持って来たのかと見ていると、カードで決済し、中国への荷物の発送も依頼してしまった。

ホテルへの帰り道、私の問いに対する彼らの答えは「日本へ来る前にパンフレットでカメラの購入希望者を募り、代金を振り込んでもらった。彼らの希望の品をすべて購入。私が欲しかった一眼レフや日本への渡航費と宿泊費も負担してもらえると。

彼らは翌日には立派な研究発表をしているので、商人でないことは確か。しかし、こうした事業家的考えは私には思いも付かぬことで、日本のカメラの優秀さや、中国の経済発展のお陰もあろうが、チョット真似できないことである。ヤルウ！

## 3、<sup>ちやせん</sup>茶筌の里の竹干し

以前に紹介したことのある生駒市北部の「高山」へ行ってみた。富雄川の上流で、室町時代から茶筌を作り、全国の9割以上40万個を生産する茶筌の里である。寒風が吹き抜ける畑の中に材料の竹が干されているが、人っ子一人いない。無断で田圃に入って写真を撮る。竹茗堂という店もあるが、堅く閉じられていて何も聞けない。



#### 4、旅行クラブのこと



その昔、中学生と共に「旅行クラブ」を作ったことがある。主目的は『日本各地を知ることにあり、副次的には緻密な企画力の養成も意図していた。私が用意したのは「国鉄時刻表」で、今はJRだが当時は国鉄。市内の旅行会社の裏などに月遅れの時刻表がゴミとなって積まれており、私が使用目的を言うと質のよいものを無料で分けて呉れた。これを利用し「将来自分が行きたい新婚旅行」の行程作成をするのが課題。外国旅行は夢の夢の時代だから、目的地は北海道や宮崎など。宿泊も数泊だが、費用は度外視して高級ホテルも可。実際に清水を何時何分にどのような列車に乗ってどこで降り、どこへ泊まって何を見物し、いつ清水に帰るか。それを精密に企画して制作することを求めた。

生徒達は喜んで取り組んだが、ことは思うように進まない。次々と横道脱線組が続出した。時刻表欄外の駅弁紹介に興を曳かれて旨い物談義、珍しい地名に首を傾げ、特急の列車名に歓声をあげるというふうである。しかし楽しいクラブであった。

私はそれ以後も時刻表の常用者である。息子に依頼すればインターネットですぐに行程表ができ、宿泊の予約まで出来てしまうが、これでは面白くない。あれこれと試行錯誤し、横道にそれて思わぬ発見をするのが嬉しい。地図を見るのも楽しみが多く、〇〇物産展などで貰った地図が役に立つ。今や一人だけの「旅行クラブ」である。

カーナビも持っていない。転居騒ぎで買い損ねたのが原因。奈良の道は迷路だから設置すれば便利なのに「迷って覚える！」などと息巻いているのは オソマツ。

#### 新聞の読者文芸 俳句・時事川柳

するすると釣瓶落しや 生駒山  
孫と搦く合格祈願の除夜の鐘  
雪雲が金剛山を覆いけり  
奥山の春日大杉 淑気満つ  
三山は定位置にあり 初日の出  
太鼓橋 頂上に立ち賀詞交わす  
寒風に御目拭ぐいて般若経  
道尋ね来し人も入れ焚き火の輪  
晩酌にお辞儀して飲み医者いらす  
夏までは冬眠だよと逃げ議員  
恵方とは勝手エエホと火を囲む  
手に勝る足の指やな 墨を練る

国宝と言えど寂しき冬の寺  
雪道に杖の跡あり ぼっくり寺  
金剛を仰いで校歌 わが青春  
ならまちの軒下低く松飾り  
耳成の朝の空気は五つ星  
初釜や 茶筌の開き傘のごと  
三輪山の風音交じる初神楽  
冬枯れや 茶筌の里の竹垣根  
ウォシュレット 戦後の苦勞 思い出す  
小鳩だすマジックショウは見飽きたり  
小まめにと電灯消してテレビ見る  
寒中や フキノトウ出るニュース来る



## 5、廣瀬神社はどこにあった？

抹茶を買いに天理へ行った。少々遠いが気分転換のドライブに良いし、お茶もいいけど店主の人柄がいい。残念ながら拙宅近くにこの手の人がいない。

そのまま帰れば何事もなかったが、「西へ向かえば廣瀬神社に行けるのではないか」と思ったのが失敗の原因。広い道路はすぐに終わり、工事中のような所に出る。地図でははっきりせず、何とか車を進めているうちに川の堤防に出た。車一台がやっとなで、間違えば川へ転落して「老人一人溺死・一丁上がり」と新聞に出るだろう。

見渡すと生駒山は右手遠く、陽の作る影・川の流れからみると南へ向かっているらしい。やっとなで堤防を離れて集落に入ったが、狭い一本道は変わらず、対向車があったら逃げ場がないし、場所が判らず、そろそろと進めて行くと給油所があった。

道を尋ねると、店員は静岡ナンバーを見て、親切に道を教えてくれた。しかし、「廣瀬神社はこのままもう少し走る」はよいが、「斑鳩へ帰るなら右へ行って左へ折れて」が判らない。まさしく奈良自慢の迷路である。

尋ね当てた廣瀬神社はなかなか立派だった。「官幣大社」という大きな石碑が立つが、明治維新の際、国家神道の上位を示す官幣大社は29社というから、かなり格の高い神社だったことを思わせる。木々に囲まれた参道が長く続き本殿に至る。

まもなく『砂かけ祭』という神事があるそうだが、砂は近くの川砂で、米を意味し、参詣人に振りかけて豊作を祈るといふ。(奈良県河合町川合 TEL 0745-56-2065)

さて帰ろうとして、「斑鳩へ帰るなら右へ行って左へ折れて」を実践しようとしても道がない。「違うよナ」と言いつつ出て来たのは郡山筒井でとんでもない所。



# 廣瀬神社

本殿 奈良県指定文化財（建造物）  
砂かけ祭り 河合町指定文化財（無形民俗文化財）

廣瀬神社は、奈良盆地の多くの河川が合流して大和川となる水上交通の要衝に位置しています。神社の西方には明治の中頃まで「川合浜」という船着場があり、物資の集散地として賑わっていました。

『河相宮縁起』では崇神天皇の時代に創建されたとされ、『日本書紀』天武天皇四年（六七五）条に、龍田の風神とともに祭祀をおこなった記事が見られます。その後、戦国時代に途絶えるまで毎年四月と七月に朝廷より使者が遣わされ、祭祀が行われていました。戦国時代から江戸時代初期にかけて一時衰退しますが、元禄年間に復興し、旧廣瀬郡の總氏神として広く崇敬を受けるようになりました。祭神は主神が大忌神の異名を持つ若宇加能売命で、水の神、水田を守る神、五穀豊稔の神として篤く信仰されています。

神社に伝わる絵図「和州廣瀬郡廣瀬大明神之圖」は室町時代に描かれたと推定されますが、この絵図には八町四方の四至に鳥居を建てた広壮な姿が描かれています。また、本殿は三殿が並ぶ姿に描かれ、相殿に櫛玉比売命と穂雷命を祀っています。永正三年（一五〇六）の戦乱により往時の建物は灰燼に帰したと伝えられます。現在に残る最古の建物は、正徳元年（一七一七）に造営された本殿です。

この本殿は一間社春日造の様式をよく伝えるものとして、昭和六十三年（一九八八）三月二十二日に奈良県指定文化財に指定されました。

毎年二月十一日に行われる砂かけ祭りは「オシタ」とも称される御田植祭で、砂を雨に見立ててかけ合い、五穀豊稔を祈る祭りです。この祭りは河合町の歴史を考える上で重要なものとして、平成二十一年（二〇〇九）十二月十一日に河合町指定文化財に指定されました。



砂かけ祭り（庭上の儀 砂かけ行事） 野本陣房氏撮影